

病児保育都も動かす

09 都議選
起業の現場から

都議選が告示された3日、駒崎弘樹さん(29)は仙台市にいた。「社会問題を解決したい」という志を同じくする友人が、仙台市長選への立候補を決めた。その応援のためだ。

その夜、インターネットで都議選にどんな人が立候補したかを見た。現場を知る人が世の中を変えてほしい。「政治へのかかわり方を自分たちの世代から変えたいんです」

駒崎さんは4年前、子どもの急病に対応できる病児保育サービスを提供するNPO法人「フローレンス」をつくった。

大学3年でITベンチャー企業を起した。当時はやりの若手社長が、社会起業家を目指したのは「金もつけよう、社会の役に立ちたい」と思ったからだ。

「脱施設」成功させ提案

ベビーシッターをしていた母親から、「子どもの急な発熱で会社を休んだら、クビになったお母さんもあるのよ」と聞かされた。調べてみると、子どもが病気になるまでの預け先は、圧倒的に少ないとわかった。経済的に成り立たないから、全国

の病児保育施設の約9割が赤字。仕事と育児で困っている親を助けようと考えた。

「で、何してほしいの？」
衆議院議員会館の応接室。いすに深々と腰掛けたある衆院議

員は言った。
病児保育の問題の理解者を増やし、地域での支援態勢を作ろうと活動中、知人に紹介してもらった。話はしたが、進展はなかった。政治資金パーティー券を売りつけてきた区議もいた。採算のとれる新しい仕組みを考える中で、商店街の空き店舗を子どもを預かる拠点にし、行政からの補助金を受けて経費を減らすことを考えた。ある自治

29歳NPO法人代表理事



駒崎弘樹さん(右)と、病児保育をする保育スタッフ(中央)＝フローレンス提供

82施設

〈メモ〉 4月現在、病児いるタイプや、単独の施設がある。都内の保育所と認証保育所は4月現在計2153か所あることを考えると、「とても少ない」(駒崎さん)。

700世帯に。神奈川県にも進出したいと考えている。

5月末、板橋区の区報に「6月からお迎えサービスつき病児保育を開始します」とお知らせが載った。保育園で子どもが急病になったら、区が委託した病院の看護師が迎えに行き、院内で一時保育をする。新しい試みとして話題になった。

実は、駒崎さんが都の担当者からアイデアを求められて示した案だ。その後、都の呼びかけに板橋区がのったと聞いた。

東京は、人もカネも、力のある民間団体もある。都と都議次第で、国をリードする政策をつくれる。「働いてくれそうな人を選べる都議選はチャンス。政治家や行政を機能させるのは私たちだと思っ」

つい最近、結婚した。結婚式で「3人目の子どもを産めたのはフローレンスのおかげです」という電報を受け取った。設立して初めての客からだ。駒崎さんの目から涙があふれてしまった。

(大井田ひろみ)

首長の一声で白紙になった。あきらめずに考えたのが、会員の自宅などで子どもを預かる「脱施設モデル」だった。安定した収入を得るため、共済型の月会費制とした。月1回の利用料は含まれ、月会費は利用頻度に応じて見直す。こうしてフローレンスはスタートした。

会員の親が、午前8時までに連絡すれば、当日2時間以内に保育スタッフが来て、子どもを会員の自宅などで預かってくれる。スタッフは、研修を受けた子育て経験者や保育士らだ。発足時は江東、中央区の住民が対象だったが、希望者が増え、今では23区全域、会員は約